

別記様式第2号(第8条関係)

会議録

- 1 会議の名称 令和6年度 妙高市いじめ防止連絡協議会
- 2 開催日時 令和6年5月31日(金) 15時15分から16時10分まで
- 3 開催場所 妙高市役所 1階 コラボホール
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
塚田賢会長、江口克也副会長、石橋一委員、小林武委員、
谷平修委員、今井一昭委員、相浦剛委員
 - (2) 執行機関(事務局:こども教育課)
小林課長、小出指導主事、寺島係長、藤井主査
- 5 欠席した者の氏名
 - (1) 委員
丸山倫央委員
- 6 議題
 - (1) 妙高市いじめ防止連絡協議会の運営について
 - (2) いじめの現状について
 - (3) いじめ防止のための学校及び市の取組について
 - (4) 情報交換、意見交換
- 7 発言の内容
 - (1) 妙高市いじめ防止連絡協議会の運営について
<質疑・意見など>
なし
 - (2) いじめの現状について
<質疑・意見など>
なし

(3) いじめ防止のための学校及び市の取組について

<質疑・意見など>

委員 市を挙げて、いじめ防止に取り組んでいることをうれしく思う。

私は児童施設の経験があり、そこでも暴力行為は小さなことを含め細かく調査していた。2週間に1回アンケート調査を行っている学校があるとの内容だったが、子どもに対してマナー防止となる工夫はされているか。

事務局 アンケートを頻繁に行うと、児童は「またアンケートか」という気持ちになり、真意が導き出せない。この手法は短い期間の中で、できるだけ情報を集めることが目的であり、その中で子どもたちに「絶対にいじめをしてはいけない、されてもいけない」という説明であり、当事者意識をもって、アンケートをすることが大事だと考えている。学校ではそのように日々指導している。2週間という期間でアンケートを実施していない学校も、期間に関係なく、「自分はいじめをしてはいけない」という感覚を持つことが重要と考えている。

委員 言葉による暴力に関して、市としての考えを聞きたい。

事務局 そのような言葉を聞いた大人がいれば、その際に「それはいけない」という指導をする。ただ、1対1で起こることに関しては、情報を得ることは難しい。第三者に話してもらうこと、家族に言う、友だちに言うことが日常となってほしい。また、事案が起きたときに、その場ですぐ言うことが大事だと考えている。

委員 まずは大人が「それはいけない」と子どもに話すことが大事だと思う。最低でも、言葉による暴力を聞いたときに、疑問を投げかけられる大人が増えることを強く願っている。

事務局 学校としては、そのような行為を見逃す教師は良くないと考えている。道徳の授業などを通じて、言葉の暴力は良くないことを考える機会を作っていきたい。

(4) 情報交換、意見交換

<質疑・意見など>

委員 私が関わる団体の活動を紹介し、情報提供としたい。法務局の支援を受けて活動している。団体の中で、専門部が4つあるうちのひとつ、子どもの専門部は上越市、妙高市で人権教室を開催している。教室では、いじめ防止だけでなくハンセン病などもテーマにしている。昨年度は、上越市と妙高市合わせて小学校16校、中学校8校で教室を実施した。小学校では全学年同時に人権教室を実施してほしいとい

う要望もあり、小学校では最低で6人の委員が必要となることから、そのような機会に備え、会員との研修を実施した。その中でいじめ防止に必要なことは、いじめを受ける場面で大人を関わらせようという共通の認識を持った。いじめている子ども、いじめられている子ども、どちらにも大切な家族がいることを認識してもらう。その認識を、地域社会への課題として、活動の範囲を広げていくことを確認した。今年度も人権教室の開催などで活動が続けていきたい。

委員 事案が発生し、訴訟問題になるなど、「いじめ」は大きな問題であることを再認識した。先程から説明があった取り組みを通じて、いじめの件数を減らしていくことが重要。私の経験上、子ども同士のトラブルを防止するには、他校生徒との交流や、縦割り班での活動。知らない子どもとの活動や経験をすることが、いじめ防止に効果があると思う。

委員 集団ができると、そこでトラブルが出るのが人の常だと感じている。学校ではそれぞれで「いじめ防止」に取り組んでいる。当学校では、相手への意識をもった子どもを育てるということを、繰り返し、教員に指導している。人と人、意見が合う合わないということが当然出てくる。ただ、意見が合わないから、いじめて良いとか、仲間外れにして良いとか、そういうことではない。お互いが尊重できれば、そういうトラブルはないと、子どもにも教員にも説明している。

そのほかに、ある事案として、加害者の子に私が直接、指導したときのこと。「プライベートゾーンって、先生から聞いたことあるでしょ」と聞いたら「知らない」と言っているのを聞いて、その担任がショックを受けていた。教員が指導したつもりでも子どもには伝わってなかった、ということもある。「伝えたつもりでも伝わってないこともある」ということを、教員に改めて指導していきたい。

委員 私の施設職員としての出来事を紹介したい。毎週月曜日、子どもの前で訓示することになっている施設があり、1年で45回、子どもの前で話す機会があった。その中で、3回に1回は「叩かない、口で言う」「プライベートゾーンには触らない、見ない、見せない」を話し続けた。そのうち、皆が覚えるようになった。

委員 子ども同士のやりとりで、遊びではなく、少々乱暴な行為が見受けられることはある。あまりにもひどい行為は注意するが、どこまでが「いじめ」になるかは判断が難しい。仲良く遊んでいるようにみえることもあり、制止するのが難しいと感じている。よくある「じゃれる」「いじる」の判断が難しいし、言葉で言うてはいけないことはすぐに注意するが、判断は難しい。また、私が関わっている施設の様子で、平日は市内の子どもがほとんどなので、どんな子どもかは分かりやすいが、休日は

市外の子どもの利用者もいるので、どのような状況なのかが分かりづらいと感じている。

上記に相違ないことを確認する。

令和6年 6 月 7 日

氏 名 塚 田 賢